「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

秦　康夫

2016 年 7 月 20 日（水）9:00～15:30

作業項目：１）夏の植生調査

２）調査区内及び周辺のネザサ等刈り取り

３）登山道調査

今日は 10 数名の初参加者があり、平日にも拘らず総勢 60 数名の大人数。従来は土樋割峠まで蛇谷林道を車で通行できたのだが、林道の一部に私有地があり、その所有者との話がこじれている関係で、全員東お多福山登山口バス停からの歩きとなった。

60 数名が 3 班に分かれ、第 1 班は 10m 四方の調査区(コデラート）4 ヶ所の植生調査、第 2 班は 2 ヶ所に分かれて調査区内及び周辺の鎌による選別刈り取り、第 3 班の JAC 関西支部 4 名は前回に引き続き登山道の調査担当ということで、東お多福山への三通りの登山道のうち、調査済みの芦屋道以外の土樋割峠道及び雨ヶ峠道の現地調査をすることになった。

土樋割峠道は、峠まではずっと舗装道路である。出発点の東お多福山登山口バス停から左に別れる芦屋道の分岐までは前回済ませているので、ここから 50m の巻尺を使って距離を測定しながら、枯損木の状況や補修箇所の有無を確認して土樋割峠まで歩いた。林道の一本道で迷うことはないが、しばしばの豪雨で道が崩れ、補修した所が何箇所もあり、降雨の際の土石流や落石発生には要注意である。起点から土樋割峠までの距離は 1.135km だった。林道は更に、黒岩谷への芦屋市林道、それに続く神戸市林道が工事中のダム近くまで伸びており、一応神戸市林道の終点、土樋割峠から 430m の地点まで測定、

確認した。

午後は土樋割峠まで戻り、峠から東お多福山頂上（697m）までの測定・調査と数ヶ所の水切り溝の仮設置を行った。アップダウンや急な登りもあるが、峠から山頂までの距離は430m、標高差は100m位、20分程度で標識のある山頂広場に着く。山頂はネザサが刈り込まれて巾10m、長さ100m程の明るい広場状になっているが、東と西にはヒノキその他背の高い常緑樹が繁っているため、残念ながら好展望は望めない。

雨ヶ峠ルートは次回調査予定なので、下見のつもりで山頂―雨ヶ峠―本庄橋跡―土樋割峠ルートを歩き、蛇谷林道を通って朝の集合場所の登山口バス停に戻った。

【参加者】

斧田一陽、秦康夫、田島聖子、森脇肇子　　計4名